

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 4

団 体 名	スポ GOMI in おたる実行委員会			
事 業 名	スポ GOMI in おたる			
実 施 期 間	令和 2 年 9 月 1 2 日 9:00～16:30			
事業の目的及び期待する効果	2020 年 2 月 15 日に石山町で開催された国際スポーツ雪かき選手権（スポ雪）では、北陵中学校、手宮連合町内会の協力のもと、地域住民と市内外から集まった多数の参加者が一致団結して町内の除雪に取り組んだ。近年、雪かきボランティアツアーが各所で開催されているが、いずれも参加者が主体となって除雪作業を行うだけで、スポ雪のように、地元中高校生や高齢者などの地域住民と一体になって実施する例を知らない。スポ雪では、地域（特定町内）の課題解決を前面に押し出しているため、住民が自分ごととして捉え、積極的にイベントに関わろうと行動を起こす。参加者は競技者として勝ちたい気持ちを持って参加するものの、地元住民から歓待されることで、勝ち負けよりも社会貢献をしたという達成感に満足するようになる。つまり、このように地域内外の交流を促進することで、互いの意識に一致点を見出し、やらされ感のない協働を実現することが、地域コミュニティの活性化を育む種となり、それを継続することで促進しなければいけない。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の脅威によって、イベントの在り方そのものを変える必要性に迫られている。我々は、with コロナ時代における新たなイベントのカタチとして、スポ GOMI リモート！を提案し、日本スポーツ雪かき連盟の協力のもと、スポ雪の夏バージョンとして、スポ GOMI を小樽市内各所で開催することによって、市内各地域コミュニティ活性化の新たなイベントの方策を模索する。			
実 施 額	事業費	216,562 円	助成額	176,873 円

事業名: スポ GOMI リモート in おたる

競技エリア: 小樽市内全域を対象としたところ、参加チームは、塩谷海岸、手宮地区(北陵中学校周辺)、最上地区(松ヶ枝中学校周辺)、小樽公園、築港エリアなど、広範囲に散らばってゴミ拾いを行った。

式典・競技など: 開会式と表彰式を ZOOM で実施。各チーム離れた場所から参加した。競技中に参加者は、スマホアプリ「ココイル」で位置情報を運営本部に伝えるとともに、ZOOM で粗大ごみの判断などを運営本部に尋ねることができた。

アプリの成果: 移動履歴とともに、滞在時間が長い地点を発色させたヒートマップを生成することによって、ゴミが大量に落ちている地点のマッピングに成功した。

参加チーム及び順位:

事業内容

	距離ポイント	ゴミポイント	合計ポイント
1 潮陵組合 Trush Busters	1,186	15,450	16,636
2 MY ライトくん	784	15,800	16,584
3 小樽市立松ヶ枝中学校書記局チーム	1,187	14,800	15,987
4 MY うさりん	986	12,200	13,186
5 The Harbor+	1,211	10,200	11,411
6 The Harbor	1,113	8,200	9,313
7 としまきりか	1,215	6,800	8,015
8 松ヶ枝中学校ドラえもんズ	1,233	6,000	7,233
9 剛魅翔威 潮陵組合	1,182	4,950	6,132
10 松ヶ枝中学校コンペイトリオ	1,354	2,600	3,954
11 松ヶ枝中学校パイナップル	1,618	2,100	3,718
12 松ヶ枝中学校真面目一人とゆかいな二人の仲間たち	1,524	2,100	3,624
13 裕紀 100%	1,142	1,400	2,542

収集したゴミの量: 102.6 キロ(例年の約2倍)

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
9月12日	スポ GOMI リモート in おたる	165人	65人

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

(1)開催回数について

令和2年8月～11月までに、新型コロナウイルス感染拡大リスクの少ない約1～2週間の開催を目指したが、春に予定されていた市内小中高校の行事が9月以降に集中したため、一斉に参加できる日程確保が困難と判断。大会運営本部として使用する松ヶ枝中学校の行事と被らない週末のみで開催することとなった。

(2)参加人数について

参加者目標 150名のところ49名、スタッフ目標数 15名のところ16名が参加した。市内小中高校にポスターやチラシを配布したものの潮陵高校、松ヶ枝中学校以外は、まったく反応がなかった。北陵中学校は14日から定期試験のため参加を見送るなど、学校行事と被っていたこと、学校側が子供たちにチラシを渡しても親の手元に届いていないケースが多かったようで、今後は、親の手元に直接チラシが届くか、SNS 等で周知するプロモーションが望まれる。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

過去すべての大会では、集合場所から往復徒歩一時間の範囲内でゴミを拾っていたが、今回は、集合場所を松ヶ枝中学校、潮見台小学校、北陵中学校の3か所に設定したことから、最上町、小樽公園、築港エリア、手宮地区、塩谷海岸など、かつてない広範囲のゴミを拾うことができたことは収穫だった。

今回は、午前9時から午後3時までの任意の一時間を選んで好きな場所のゴミを拾う「三密を避けた」ルールとしたため、参加者からは、「みんなと一緒にやりたかった」という意見もあったが、各チームともに、事前に下調べをして、ゴミが多い地域でゴミ拾いをしたことから、去年の約2倍の重さのゴミを拾うことができた。

築港エリアに向かう途中、チームに同行した市議会議員スタッフの話によると「臨港線沿いにゴミ(トラック等から捨てられたゴミと推定される)が散乱していることに驚き、観光都市小樽としては対策を講じる必要がある」と新たな気付きを得たのは収穫だったようだ。また、塩谷海岸でゴミを拾った7歳の女の子は、表彰式で「ゴミを隠して捨てるくらいなら、ちゃんとゴミ箱に捨てればいいのに」と、大人の意識の低さに疑問を持ったようだ。スポ GOMI は、子どもの環境意識を高め、このような意識を大人になっても持ち続けるというエビデンスがある。

3. 今後の事業について

今回は、「マスク着用」、「競技後の除菌」の他、三密を避けた ZOOM 開閉会式やアプリを使った参加チームの位置情報把握など、新型コロナウイルス感染対策を徹底した With コロナ時代のイベントスタイルを試行した。参加者がアプリを起動しなかった、アプリを停止してしまった、時間計測を忘れてしまったなど、競技を運用するうえでのトラブルはあったが、参加チームが「拾っていいゴミかどうか？(粗大ごみは拾ってはいけないルール)」、「万歩計が動いてない」など、質問やトラブルが生じた際、ZOOM を使って大会本部に映像とともに連絡することでスムーズな判断、指示ができた。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等

第7次総合計画では、「市民との協働促進」が重要施策となっています。しかし、町内会を取りまとめる役員の高齢化が進み、担い手確保にも苦勞するなど、町内会組織は日に日に弱体化しています。町内会組織の活性化は市民との協働を実現するうえで必要であり、効果的な施策を講じなければいけません。私たちの活動は、「地域に住む各世代と地域外との交流を通じて、楽しく課題を解決する」事例となるものです。残念ながらコロナによる重症化リスクが高い高齢者が多い町内会の皆さんを積極的に呼ぶことはできませんでしたが、私たちの活動の目的とともに、活動実績を多くの市民の皆さんにお伝えいただけるようご協力をお願いいたします。